

第6節 環境と調和した農業の推進

農業の本来有する自然循環機能を発揮させつつ、環境に配慮した持続的な農業生産活動を推進するため、良質たい肥を用いた健全な土づくりを基本に化学肥料や化学合成農薬の使用量をできるだけ少なくするなど環境と調和した農業を推進しています。

1 環境と調和した産地づくり

県・地域・市町村の推進体制の整備や生産者・消費者等に対する意識啓発を進めています。

- ① 研修会の開催
- ② ブロック別研修会の開催
- ③ パンフレットやホームページ等による啓発

2 家畜排せつ物等の良質たい肥化

耕種部門と連携した良質たい肥づくりを進めるとともに、環境汚染防止対策の推進に努めています。

(表1-91, 表1-92)

表1-91 県内の家畜排せつ物の処理状況(平成22年)

(単位:千トン, %)

項目	放牧	たい肥化 処理 施設	焼却 施設	液肥化 処理 施設	浄化 処理 施設	外部処理		自作地 還元等	合計
						産廃処理 委託	たい肥 センター		
固形物	17	3,171	51	0	0	41	320	479	4,078
液状物	4	50	0	165	1,372	4	132	203	1,930
計	21	3,221	51	165	1,372	45	452	682	6,008
割合	0.4	53.6	0.8	2.7	22.8	0.7	7.5	11.4	100.0

表1-92 共同利用たい肥生産施設の整備状況

(単位:カ所)

年度	H12まで	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	合計
施設数	308	27	20	53	45	21	11	24	15	16	12	552

3 健全な土づくりと適正な施肥の推進

作物に応じた良質たい肥の利用を基本として、土壌診断、施肥基準に基づく適正施肥の推進や土層改良の推進等に努めています。

- 耕種・畜産両部門の連携による良質たい肥の生産と利用推進
 - ・県良質堆肥生産利用推進協議会の設置(平成13年7月)
 - ・たい肥コンクールの開催

4 適正な病虫害等防除の推進

病虫害発生予察、「農薬使用の手引き」に基づく適正防除の推進や生物的防除法の導入等による総合防除の普及に努めています。

- 生物的防除法の事例
 - ・米ぬかからの拮抗微生物を利用したバレイショのそうか病抑制技術
 - ・施設ピーマン、施設カンキツ等への天敵昆虫を用いた防除

5 持続性の高い農業生産方式の導入状況

「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減に一体的に取り組むエコファーマーの確保・育成に努めています。
(表1-93、表1-94)

表1-93 エコファーマーの年次別認定の状況 (平成23年3月末現在) (単位:人)

年度	H11	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
認定数	8	1,272	1,313	395	495	446	388	186	277
累計	8	1,917	3,230	3,625	4,120	4,526	4,354	4,316	4,428

表1-94 エコファーマーの部門別認定の状況 (平成23年3月末現在) (単位:人)

部門名	水稻	野菜	果樹	花き	工芸作物	飼料作物	部門計
認定数	1,191	2,314	312	77	521	13	4,428

※2品目以上で認定の場合、面積の広い部門に入れている。

6 農業用廃プラスチック類の年度別処理状況

農業用廃プラスチック類の処理について、再生処理を基本とした適正処理を推進し、地域ぐるみでの回収体制の整備を進めています。(表1-95)

- ・県農業用廃プラスチック類適正処理推進協議会の設置(平成10年11月)
- ・県内全域に地域協議会の設置(平成11年6月)

表1-95 農業用廃プラスチック類の処理状況 (単位:t, %)

調査年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22(割合)
再生処理	2,393	2,584	2,882	3,165	3,229	3,363	3,594	3,559	4,210(74)
埋立処理	1,766	1,183	1,028	983	712	641	544	363	357(6)
焼却処理	52	57	88	132	108	114	62	23	24(1)
その他	1,616	1,604	1,267	1,238	1,565	1,518	1,023	988	1,096(19)
合計	5,827	5,428	5,265	5,518	5,615	5,636	5,223	4,933	5,687(100)

※年度は、前年7月～当年6月

7 特別栽培農産物等の生産支援

環境と調和した栽培方法を採用して農産物を生産する農業者を支援するため、平成4年に農林水産省が定めた「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づく慣行レベル(各地域で慣行的に行われている化学肥料の窒素成分の使用量及び化学合成農薬の使用回数)の設定等を行っています。

また、生産者の農業生産行程管理(GAP)を外部機関が審査・認証する「かごしまの農林水産物認証制度(K-GAP)」において、平成20年より化学肥料や化学合成農薬を慣行レベルより5割以上低減する基準を設定しており、生産者の取組を支援しています。

8 環境と調和した農業技術の研究開発と普及

化学肥料・化学合成農薬の使用低減を図る栽培技術や環境保全及び資源利活用に関する技術の開発等に努めています。

また、県農業開発総合センターで新たに開発された技術等については、現地で実証ほを設置するなど農業者への早期普及定着に向けて、現地の実態に的確に対応した普及指導活動を

行っています。（表 1－96）

表1－96 現在取り組んでいる主な研究課題

研 究 課 題		実施試験場等
化学肥料の使用低減を図る栽培技術の開発	・ 水稲・露地野菜における肥料コスト低減技術の確立	農業開発総合センター 生産環境部
	・ サツマイモのリン酸，加里減肥対策技術	農業開発総合センター 大隅支場
	・ 畑かんを利用した夏季湛水による肥料コスト低減技術の確立	
	・ 良質自給飼料による乾乳期の飼養管理の改善	農業開発総合センター 畜産試験場
	・ 生産環境の変化に対応したサトウキビの栽培管理技術の確立	農業開発総合センター 徳之島支場
化学合成農薬の使用低減を図る栽培技術の開発	・ 臭化メチル全廃に対応したピーマン土壌病害虫防除技術の確立	農業開発総合センター 生産環境部，園芸作物部
	・ 地域の生態系を生かした害虫の発生を抑制する露地野菜の管理技術の開発	農業開発総合センター 生産環境部
	・ 病原ウィルス媒介昆虫の海外飛来実態及び当該ウィルス病発生動態の解明	
	・ クリーンな茶生産のための土着天敵活用型防除技術の開発	農業開発総合センター 茶業部
	・ 昆虫病原性糸状菌のミツバチ媒介によるアルファルフタコゾウムシの防除技術の開発	農業開発総合センター 大隅支場
	・ サトウキビ病害虫防除技術確立試験	農業開発総合センター 大島支場
	・ ピーマンのDNAマーカー利用による土壌病虫害複合抵抗性素材及び台木の評価	農業開発総合センター バイオテクノロジー研究所，園芸作物部
化学肥料及び化学合成農薬の使用低減を図る栽培技術の開発	・ 環境にやさしく安心・安全な果物づくり技術の確立	農業開発総合センター 果樹部

環境保全及び資源利活用に関する技術の開発	・農耕地からの温室効果ガス抑制対策技術の開発	農業開発総合センター 生産環境部
	・野菜における土壌微量元素の全国基礎調査と土壌管理技術の確立	
	・本県の気象条件に対応した有機農業技術体系確立	農業開発総合センター 園芸作物部，生産環境部， 茶業部，加工センター
	・CO ₂ 削減に向けたLED利用による環境にやさしい花き栽培技術	農業開発総合センター 花き部
	・脱石油新暖房システムと果実炭素収支に基づく省エネ施設果樹栽培	農業開発総合センター 果樹部
	・CO ₂ 削減のための茶の節電型防霜法の確立	農業開発総合センター 茶業部
	・焼酎製造副産物中の機能性成分を生かす新たな食品素材開発	農産物加工研究指導 センター
	・南九州畑作地帯における環境負荷物質の制御技術の開発	農業開発総合センター 大隅支場
	・下水汚泥肥料を活用した安心，安全な施用技術の確立	
	・地域低利用資源の飼料化促進技術開発(甘しょツル回収機)	
	・サツマイモのリン酸加里減肥対策技術の開発	
	・焼酎粕等の未利用資源有効利用による効率的生乳生産	農業開発総合センター 畜産試験場